

■藤原俊成 歌人。定家の父。武家社会へ転換する大変革期に、歌壇を指導、六条家を圧倒し、和歌と書に新風。

ふじわらのとしなり

・ ・ ・ ・ ・ 1114＝ 藤原道長直系の4代目参議俊忠の子に生まれる。母は藤原敦家の娘。

「蜻蛉日記」作者を母方先祖にもつ文化的環境のなか、堀河院の乳母だった外祖母兼子に養育され、

・ ・ ・ ・ ・ 1123＝ 9歳：この頃、父が死去。葉室顕頼の猶子となり顕広と称する。

群盗が横行し、

鳥羽院政始・1129＝15歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1131＝16歳：天承の大飢饉あるなど、不安な時代に青春を過ごして、感受性豊かな人格が形成され、

武家内昇殿始1132＝18歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1134＝20歳：この頃の「為忠家両度百首」、

兼子の兄弟で和歌に優れた藤原道経の勧めで、

・ ・ ・ ・ ・ 1138＝24歳：歌壇の指導的立場にあった藤原基俊に入門、

西行出家・ ・ 1140＝26歳：西行の遁世にも衝撃受け、傑作'世の中よ道こそなけれ思ひ入る 山の奥にも鹿ぞ鳴くなる'を詠み、

崇徳天皇譲位1141＝27歳：*それを収録した「述懐百首」などの力詠で、崇徳院歌壇の殊遇を受けるようになり、

・ ・ ・ ・ ・ 1142＝28歳：この年、鳥羽上皇の後美福門院に仕える女房加賀が夫藤原隆経との子隆信(のち肖像画家)を出産。

為義頼長臣従1143＝29歳：「久安百首」の作者の一人に加えられ、

美福門院に仕える女房加賀との激しい恋愛もあって、

頼長氏長者・1150＝36歳：詠進、幽玄・優艶な余情美を表現する代表作が集中、

頼長内覧・ ・ 1151＝37歳：「久安百首」部類の下命を受ける。

この頃には、加賀と結婚、連れ子の隆信を養育し、

頼長内覧停止1155＝41歳：長男成家が誕生、

保元の乱・ ・ 1156＝42歳：「極楽六時讃歌」成るか。鳥羽天皇死去に際しての落飾出家の結縁で、西行と同席、以後親交する一方、崇徳院歌壇が急速に崩壊、

平治の乱・ ・ 1159＝45歳：ついに崇徳院が讃岐に配流になるも、妻の縁で、美福門院に庇護され、自らの姉が二条天皇の乳母であったことも幸いして、和歌に専念できる状態が保たれる。

なお歌壇を主導していた六条派の観念的な古典追隨、万葉好尚の風潮と対立、「古今集」以来の優美な抒情に和歌の芸術性を認め、さらに時代の感性をとらえ、

・ ・ ・ ・ ・ 1162＝48歳：次男定家(のち歌壇の神様)が誕生。兄快修が天台座主となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1164＝50歳：崇徳院が讃岐で死去したことが伝えられ、哀悼の歌を詠む。

源頼政内昇殿1166＝52歳：「中宮亮重家朝臣歌合」で、ついに判者となって、歌壇のリーダーシップを握り始めると、

清盛太政大臣1167＝53歳：正三位となり、父の御子左家に帰り、俊成と改名し、

厳島神社・ ・ 1168＝54歳：*平氏専横極まるなか、住吉神社に籠って和歌に命捧げる覚悟を決め、

・ ・ ・ ・ ・ 1170＝56歳：「建春門院北面」歌合」判者。「住吉社歌合」判者となり奉納、より厳しい判詞を用いるようになり、持病のマラリアと闘いながら、

・ ・ ・ ・ ・ 1172＝58歳：「広田社歌合」判者。

・ ・ ・ ・ ・ 1173＝59歳：「三井寺新羅社歌合」判者などつとめて、自ら育成した御子左派新進歌人も登場、諸家歌合の判者にも招かれ、歌壇の重鎮と目され、

・ ・ ・ ・ ・ 1176＝62歳：マラリアの症状が重篤となり、臨終覚悟して出家し釈阿と名乗るも、奇跡的に回復。

鹿ヶ谷事件・1177＝63歳：*藤原清輔の後任として関白九条兼実の和歌師範に迎えられ、六条家の権威と劇的交替、

・ ・ ・ ・ ・ 1178＝64歳：崇徳院哀悼歌含む家集「長秋詠藻」を自撰して守覚法親王に献呈。「別雷社歌合」判者。

治承のクーデタ1179＝65歳：秘密裏に行われた「右大臣家歌合」判者。兼実邸を訪れ、徹夜で和歌を談じあう。

源氏一斉蜂起1180＝66歳：自宅が火災で焼失、この前後、再三再四火災に遭遇し、転居重なり不自由な暮らし。

1181＝67歳：この年、養和の大飢饉。五条の新邸に落着き、子定家に古今伝授。

1182＝68歳：月詣和歌集に撰入。

後鳥羽天皇・1183＝69歳：後白河院より、「千載和歌集」撰進の院宣が下り、第一人者となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1184＝70歳：都落ちする平忠度から歌を託され、詠み人知らずとして入撰させる。「加茂社歌合」に出詠。

平氏滅亡・ ・ 1185＝71歳：この年の豊明の宴で、源雅行に侮辱された定家が雅行を殴って除籍されると、

九条兼実摂政1186＝72歳：その解除に奔走し、後白河院の許しを得る、以後、両者は親交するようになる。

藤原秀衡没・1187＝73歳：西行の自歌合「御裳濯川歌合」判者。「千載和歌集」撰を完了し、院に奏覧、

・ ・ ・ ・ ・ 1188＝74歳：「千載和歌集」20巻として清書し完成。

奥州藤原滅亡1189＝75歳：

鎌倉幕府始・1192＝78歳：この頃、「古今問答」を成すか。

・ ・ ・ ・ ・ 1193＝79歳：妻加賀が死去。「六百番歌合」で指導力発揮、源氏物語を踏まえ、「寂寥美”から”優艶美”への転換に決着。

東大寺再建完1195＝81歳：「民部卿家歌合」判者。慈円と和歌の応酬をするほど意気軒昂としており、

・ ・ ・ ・ ・ 1197＝83歳：*史上最高とされる歌論書「古来風体抄」(自筆の書自体で国宝指定)を式子内親王に献進。

・ ・ ・ ・ ・ 1198＝84歳：「後京極殿自歌合」判者。さらに後鳥羽院の信頼を得て、子定家と新風を深化、新古今様式の開花を導き、

梶原景時征討1200＝86歳：「後鳥羽初度百首」に出詠。「御室撰歌合」「二十四番歌合」判者。

・ ・ ・ ・ ・ 1201＝87歳：式子内親王が死去。「新宮撰歌合」「影供歌合」「撰歌合」「千五百番歌合」判者。

・ ・ ・ ・ ・ 1202＝88歳：マラリアに苦しむなか、「千五百番歌合」出詠。「水無瀬殿恋十五首歌合」「水無瀬桜宮十五番歌合」判者。

執権政治始・1203＝89歳：「八幡若宮撰歌合」判者。病臥のなか、後鳥羽院から九十の賀を賜い、最後まで指導者の地位を保って、

源頼家暗殺・1204＝90歳：「春日社歌合」出詠を最後に、雪を喜び欲しがりながら、没した。

東野利夫「臨終の雪」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、「王朝の歌人たち・中世の歌人たち」、日本の古典名著、